

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300529		
法人名	社会福祉法人 博愛会		
事業所名	グループホーム山口あかり園		
所在地	山口県山口市黒川3363番地		
自己評価作成日	令和2年11月24日	評価結果市町受理日	令和3年6月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和2年12月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭的環境の中で、利用者の皆様と職員が三食とも一緒に食事作りをしています。</li> <li>・食材は出来る限り地元産を使用し、地産地消に取り組んでいます。</li> <li>・入浴は、利用者の皆様の心身の状態に合わせて、一人ひとりゆっくり入浴して頂いています。</li> <li>・同敷地内に病院・老人保健施設・特別養護老人ホーム・特定施設有料老人ホーム・居宅介護支援事業所・地域包括支援センター等があり、医療・保健・福祉の連携のもと、サービスを提供しています。</li> <li>・コロナ禍の中でも、少しでも楽しく過ごしていただくため個別外出や園内行事に取り組んでいます。</li> <li>・毎日行っている体操で、体力低下防止や、心身機能維持に努めています。</li> <li>・家族の希望に沿い、利用者の重度化に合わせた介護をすることで、出来るだけグループホームでの生活が継続出来るように支援しています。</li> </ul>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>コロナ禍の中、これまでの楽しみに参加していた地域行事や地域との共催事業などが中止となり、利用者のためにどうにかしたいという職員の思いから、これまで利用者が地域の人や家族と一緒にされていた行事を形を変えたり、縮小するなどの工夫をして事業所内で実施しております。バイキング昼食会や夏祭り(定番のヨーヨー釣りや金魚すくい、たこ焼きなど)、輪投げ大会、寿司バイキングの敬老会、園内での花火大会、園内での誕生日会、園内での足湯など、利用者を楽しんでいただけるように取り組んでおられます。外出では利用者の日記の中に行きたい場所を書いてもらう働きかけをされて、利用者の行きたい場所や馴染みの場所に出かけておられます。ドライブでは市内や仁保方面、宮野方面へ出かけられたり、卒業した小中学校、自宅付近、瑠璃光寺、維新公園、一の坂など、馴染みの場所に向かかれたり、誕生日のドライブ、ドライブスルーでのコーヒーを楽しまれるなど、感染防止に配慮し三密回避をした上で、利用者の思いや希望に添って、行きたい場所に出かけられるように支援しております。</p>
---

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を事務所内に掲示し、全職員が共有し、理念の実施に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、法人の理念と併せて事業所内に掲示している。3カ月に1回実施している全体会議で理念について確認して、共有し、日々、実践する中では「利用者の個別性を捉えた対応をしているか」を話し合い、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域のと共催する納涼ふれあい祭りや地域の文化祭・お祭りへの参加、地域の保育園児との交流会、地域行事への積極的な参加。また地元自治会主催の野菜市等の利用も行っている。地域の介護・看護養成校からの実習生の受け入れや地域の集會に施設長が出席し情報交換を行い、地域との関係が深まるように取り組んでいる。 (今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため地域との交流は控えている)	コロナ禍の中で、地域での行事も地元自治会の行事もすべて中止となっている。法人主催や事業所主催行事も中止となっている。ボランティア(歌、手品、ギター、ハーモニカ演奏)は、今年のクリスマス会に来訪があったが、今年度は無い。地元自治会の野菜市が中止の為、野菜市のメンバーから花の差し入れがあったり、法人の敷地内を散歩時に出会う同一法人の特養利用者やデイサービス利用者と挨拶を交わしている。地域に出向いても人のいない場所やドライブで車内からの見学であり、新型コロナウイルス感染症の防止を第一としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、自治会長や地域住民(利用者の家族も含む)の皆様からの地域の様々な情報や意見をもとに、地域の皆様に必要とされているテーマを取り上げ、情報提供している。また敷地内にある地域包括支援センターや居宅支援事業所に来られる地域住民の皆様の中で事業所見学や説明等が必要な家族の方には随時対応している。 (今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため運営推進会議は中止、施設見学等もお断りしている。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	施設長・管理者・職員が評価の意義を理解し、評価結果の指摘事項については、見直し、改善に可能な限り取り組んでいる。	管理者はユニット会議の中で評価の意義を説明し、職員一人ひとりから聞き取りをしてまとめている。管理者にとっては初めての評価の機会であり、職員は利用者と話し合う場や時間もあり、利用者の個別性を理解する時間は十分あるが、一方でマンネリ化しやすいと感じ、マンネリ化しないための新しい試みについて職員間で話し合っている。前回の外部評価結果を受けて、目標達成計画を立て、外部研修の受講者を増やすなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、活動報告や毎回テーマを決め意見交換を行い、参加者から出された意見を積極的にサービスの向上に活かしている。欠席のご家族にも後日、報告書をお届けしている。 (今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため運営推進会議は中止している。)	会議は、コロナ禍の中、1回(1月)のみ、開催し、利用者の状況や行事予定、活動報告、事故、ヒヤリハット報告、職員の研修報告等を行った後、話し合いをしている他、毎回テーマを決めて紹介や説明をしている。今回は事業所の食事の試食会を実施し、手作りの食事を体験してもらって、参加者からは、「軟らかく、味もよく、品数も多い」と感心の声が多くあった。その後、5回の会議は報告も連絡も実施していない。	・運営推進会議を活かした取り組み ・止むを得ず会議を中止の際も、メンバーに、利用者の状況や活動報告を行い、意見をもらってサービス向上に活かす工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当課には、諸手続き以外にも相談をして助言を得ている。また敷地内にある包括支援センターとは、随時の相談にも対応していただけるように連絡を密にしている。	市担当者とは電話や直接出向いて、情報交換や相談をして助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、同一法人であり、電話や直接出かけて連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしないケアの実践を常に心掛けており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。玄関等の出入り口は基本的に施錠は行わず、利用者が自由に出入りが出来るようにしている。	職員は、「身体拘束適正化に関する指針」やマニュアルを基にした研修、3か月毎に実施している「身体拘束廃止委員会」の事例を通して学び、身体拘束や虐待の内容や弊害について、正しく理解している。スピーチロックについては、管理者が内部研修時に「言葉の言い換え表」を配布して徹底している。玄関には施錠をしないで外出したい利用者があれば、職員と一緒に出かけるなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設外研修に参加したり、関係資料等で理解・意識を深めている。施設内では、ケアの中で無意識の中で虐待と思われる行為が行われていないか職員間で話し合い、全体会議で取り上げ、虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設外研修に参加したり、関係資料等で理解・意識を深めている。成年後見制度を利用されている利用者がいらっしゃるので、成年後見人の方と接し、具体的な内容を支援しながら学ぶことが出来る。敷地内にある地域包括支援センターと連携し、必要時には運営推進会議等を通じ利用者・家族への情報提供が出来る体制になっている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所決定時に家族に重要事項を説明し、不安や疑問点の解消に努めている。入居後、説明した内容に変更がある場合は、書面にて説明し理解・納得が得られるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情受付体制の説明を行っている。本人の思いは、日々の関りの中で、本人の言動や様子等を把握し、記録に残し職員が共有しケアに活かしている。家族からの意見や要望は、面会時、電話、定期的開催しているカンファレンスや運営推進会議等で吸い上げている。	相談、苦情の受付窓口や第三者委員、外部機関を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明をしている。面会時(玄関先のフロアや窓越しで短時間)、運営推進会議時、電話等で意見や要望を聞いている。2か月に1回、事業所便りと個別の写真、利用者の生活の様子を手紙に書いて、家族に送付し、意見や要望が言いやすいように工夫している。相談や要望は生活記録や申し送り帳に記録して職員間で共有している。家族からは「コロナ禍の中、入居して見守られているので安心」、「皆さんは大変でしょう」と職員への労いの言葉を聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット長会議、ユニットカンファレンスを行い、利用者のケアや業務の見直し等についての意見交換の場としている。年4回の職員全体会議を実施し、職員の意見が運営・処遇に反映されている。	管理者は、月1回のユニット会議や年4回の全体会議、カンファレンス時、委員会活動(安全衛生、事故対策)、係り業務(行事、環境、物品等)、申し送り時に聞いている他、必要に応じて個別面談をして聞いている。管理者は職員とのコミュニケーションに気を配り、職員の小さな変化に気づいた時には管理者の方から話しかけて、話しやすい雰囲気づくりに努めている。職員からは、感染防止の観点から食事を一緒にしないことや、消毒の工夫(夜勤時に実施)、職員と利用者との感染防止を意識したふれあいの場(ドライブやテイクアウトの利用)をつくるなどの意見を運営に反映している。、	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況・心身の健康状態を把握した上で、必要に応じ面談を行い、要望・意見等の吸い上げを行っている。職員の意見を取り入れた勤務表の作成や休憩室の設置等常に最適な環境作りに努めているが、休憩時間については、利用者の状態人員不足により、十分な休憩が確保できない場合があり、ストレスを感じている職員もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階的に外部研修に参加出来る機会を勤務の一環として提供している。受講後は、復命報告を行い、全職員が研修内容を共有出来るようにしている。新任職員については、ユニットリーダーや先輩職員による指導を、個々の能力に応じ実施している。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。認知症介護実践者研修や認知症介護基礎研修、市介護サービス提供事業者連絡協議会合同研修、認知症対応型サービス事業者管理者研修、介護支援専門員更新研修に、各1名が参加している。受講後は復命書を回覧して、内部研修で伝達し、資料はいつでも閲覧できるようにして職員全員が共有している。内部研修は、ユニットカンファレンス時や全体会議の中で、管理者が講師となって、認知症についてや身体拘束廃止について、虐待防止について、イマニチュード、不適切な対応について、言葉の言いかえ表、事故防止、緊急時の対応等を実施している。新人職員は、法人での研修終了後、日々の業務の中で、ユニットリーダーや先輩職員から介護の知識や技術を学べるように支援している。資格取得のために研修機会の便宜を図っている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口市の施設サービス部会の会議や研修に参加し、同業者との交流の機会を設けているが、参加できない場合もあり、他施設の見学や情報交換の場を設け、サービスの質の向上を図っていきたい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入園前に来園して頂き、施設行事(茶話会等)への参加や体験宿泊等の機会を設けたり、入居前の担当ケアマネや利用施設の職員・家族からの情報を得ることで、本人が安心して新しい環境になじんで頂けるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人と一緒に来園して頂き、不安なことや要望等家族から出来るだけゆっくりお話が聞ける時間の確保に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に得た情報や入居時の本人の状態を把握することで本人に必要なサービスを見極めるよう努めている。必要に応じて他のサービス・施設見学や説明等も行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気的环境作りに努め、利用者と職員が、家族のように支え合い協力して毎日過ごしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人に対し、家族と同じ気持ちで接し、常に家族に相談しながら家族と共に本人を支えていくという意識は職員が持つように努めている。家族にはカンファレンスや機関誌等を通じ情報提供を行っている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の生活歴を把握した上で、本人の馴染みの場所や店への外出支援を行っている。遠方の親戚からや知人からの手紙や電話、地域の文化祭や神社の祭りへの参加等、関係が途切れないようにしている。	家族の面会（玄関先のフロアや窓越しで短時間）の他、事業所から馴染みの場所（自宅付近、卒業した小中学校、公園、神社等）に出かけて、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、利用者同士の関係を把握し、利用者同士と一緒に過ごせる時間・場所の提供をしている。共同作業を見守りで行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて、可能な限りの相談・支援に努めている。併設施設は移られた場合は、職員への情報提供を積極的に行い、機会のあるごとに利用者本人への声掛けを行い関係を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や家族からの情報・日々の関わりの中で、本人の言動や様子を記録に残し、本人の思いや意向の把握に努め、共有している。また月1回行っているユニットカンファレンスで個々について職員が意見を出し合い、その人らしい生活が送れるように支援している。	入居時には、事業所独自のアセスメントシートを活用して、本人や家族から、利用者の生活歴や情報(得意なこと、本人の自慢、強く印象に残っていること、やってみたいこと、好きな色、好きな歌手、歌、好きなもの、嫌いなもの)、家族の記録による基本情報の中から思いや意向の把握をしている。日々の関わりの中で、利用者の行動や発した言葉、繰り返す言葉、表情、笑顔が見られた場面、得意なこと、やってみたいと思っていることを生活記録に細かく記録し、ユニット会議で話し合い、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族に記入して頂いた基本情報や日々の関わりの中で、これまでの生活や環境等を本人から聞き出し、記録に残し、共有し、把握に努めている。また、入居前の担当ケアマネや他事業所等に情報提供をして頂き、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。			
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活状況、申し送り帳を利用し、生活状況・心身状態等の把握に努めている。有する力については、定期的に行われるカンファレンスやモニタリング等で「できること・できないこと」を家族に伝え、確認して、現状の把握に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のユニットカンファレンスや半年に1回のケアカンファレンス(本人・家族参加)、3か月に1回のモニタリングを通じ、それぞれの意見や思いを反映した介護計画を作成している。本人の状況に変化が生じた場合には、随時、本人・家族等と話し合い、見直しを行っている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心になって、毎月1回、ユニット会議の中で、本人や家族の思いや意向、主治医、薬剤師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3か月毎にモニタリングを実施し、6か月毎に電話で家族の参加を得てカンファレンスを開催して見直しをしている。利用者の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容・健康状態(バイタルチェック・排泄状況・食事摂取量等)等を記入した個別のケース記録を共有し、実践や介護計画の見直し、または体調不良時の受診等にも活用している。ケアプランに対する評価を担当職員が月末に行い、職員間の情報の共有を図り、見直し等に活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の対応や外部医療機関への受診の付き添い等、本人・家族の状況により柔軟な対応が出来るように心掛けている。必要に応じて同敷地内にある他施設の各分野の専門職に助言・応援してもらえよう、常に連携を取り、柔軟な支援に努めている。特に、認知症専門医との連携を強化している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園児交流会や公民館祭りへの参加、地元スーパーや美容院の活用、一人ひとりが暮らしを楽しむことができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族の同意の上、敷地内の協力医をかかりつけ医とし、月1回の往診、年1回の健康診断を行っている。緊急時には日中・夜間を問わず適切な医療を受けられるように支援している。さらに、手厚い医療が受けられるように、協力病院との連携に努めた。</p>	<p>本人、家族の納得を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の訪問診療と年1回、健康診断がある。他科受診は家族の協力を得て支援している。歯科は1カ月に1回、往診がある。受診結果は往診記録や他科受診記録に記録して職員間で共有し、家族には電話で報告している。日々の健康観察は職員が行っているが、必要に応じて、協力医療機関の看護師の支援がある。24時間、オンコール体制にあり、休日、夜間、緊急時には、協力医療機関や協力医療機関の看護師と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	
32		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>昼夜を問わず気になることがあれば、協力病院の外来・担当病棟の看護職員に相談し、指示を貰うことが出来る。しかし、看護職との情報交換には限界があり、不十分な点もあると感じている。</p>		
33		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には安心して治療が出来るように利用者情報を病院に提供している。協力病院でのカンファレンスへは、家族・病院の了解の上参加し、早期退院に向けての協力を努めている。</p>		
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合の対応については、契約時に家族に事業所の方針を説明し、同意の上共有している。実際に重度化した場合は、状態の変化がある度に家族・主治医・関係者等と話し合い、方針を共有しながら支援に取り組んでいる。病院への入院・他施設への入所を含め支援している。</p>	<p>重度化した場合に事業所でできる対応を契約時に家族に説明をし、同意を得ている。実際に重度化した場合は早い段階から、主治医が家族に病状を伝え、本人や家族の意向をふまえて、家族、関係者と話し合い、入院や他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、チームで支援に取り組んでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット報告書や事故報告書の記録をもとに、月1回行われる隣接施設との合同事故対策会議等で改善策等を検討し、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。また、運営推進会議で事故防止に対する取り組みを資料に使い具体的に説明し、出席者に理解を得ることが出来た。AED講習会(園内)へも参加し、実践力を身につけるように努めている。	事例が生じた場合は、ヒヤリハット報告書、事故報告書に原因、対応、予防策を記録して全職員に回覧して周知している。3か月毎の全体会議でさらに検討するとともに、月1回の拠点内事故対策委員会での情報をふまえて、利用者一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。職員は消防署が主催する救命救急法とAEDの取り扱いの研修を受講している。事故防止の取組みとして、誤薬についてや発熱時の対応、血圧上昇時の対応、窒息、転倒等について研修を実施している。	・全職員が実践力を身に付けるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接施設と合同で、年2回日中・夜間想定での避難訓練、消火器の使用での消火訓練を行い、その都度マニュアルを見直している。	年2回、同一敷地内にある法人施設と合同で昼夜の火災、風水害を想定した通報訓練、避難訓練、避難経路の確認、防災機器の使い方、消火器の使い方を利用者も参加して実施している。訓練の都度、利用者が避難できる方法を職員が実践できているかをマニュアルに添って実施している。法人施設は地域の避難場所としての役割を担っており、地域との協力体制を築いている。非常用食品は、法人厨房が備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者の気持ちになって接するように心掛け、なじみの関係を築きつつも、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを行うように努めている。不適切な対応があれば職員同士で声を掛け合い改善に努めている。	職員は、内部研修(不適切な対応について)や権利擁護研修、管理者による「利用者に対して、声の大きさや強い言葉を使わないこと」の指導等で学び、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば、職員間で注意し合っている。個人情報適切に管理し、守秘義務は徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、一人ひとりにあったコミュニケーションの取り方を見極め行うことで、本人の思いや希望を表したり、自己決定が出来るような支援に努めている。1対1であれば、お話しされる方もいらっしゃるので、日中・夜間、可能な限る話す時間を持つように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務等を優先するのではなく、常に寄り添い、見守りをしつつ、利用者の思いや希望を汲み取り、一人ひとりが無理せずペースを崩すことなく1日を過ごせるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びや着替えは利用者個人の自由だが、組合せが不自然なものや季節に合わないものを身に着けている場合は、一人ひとりに応じた声かけを行い、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。定期的な美容院への連れ出しや行事（誕生日会や祭り）や外出時の化粧の見守りを行い、年齢を問わずおしゃれが出来るよう支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が三食ともに調理をし、同じテーブルで会話をしながら食事を楽しめるように支援している。(コロナ禍では一緒に食事は控えている)調理・配膳・食事の声かけ・後片づけは個々の能力に応じ分担し、参加して頂いている。献立や食材について本人や家族の希望を取り入れ、施設の畑でとれた旬の野菜を使った献立の提供も行っている。本人用の茶碗、箸、湯飲みを使用している。	利用者の希望を聞いて職員が献立を立て、法人の管理栄養士のアドバイスを受けて、事業所で三食とも手づくりの食事を提供している。事業所の畑で獲れた旬の野菜や新鮮な食材を使い、季節感を大切に、食材の数や種類を多くし、食べやすいように形態や食器の工夫をして提供している。利用者は、畑で収穫した野菜(大根、さつまいも、グリーンピース、柿)の下ごしらえや切る、炒める、包む、味付け、お茶汲み、下膳、テーブル拭き、コップを洗う、メニュー書きなど、できることを職員と一緒にしている。コロナ禍の中、職員は同じテーブルについているが、食事は一緒に摂っていない。おやつづくり(ホットケーキ、ぜんざい、おはぎ、ゼリー、フルーツ寒天、果物)、菓子づくり(チーズケーキ、スイートポテト、卵ボーロ)、昼食バイキング、戸外食(中庭での喫茶)、誕生日食(職員とケーキを購入して喫茶を楽しむ)、お寿司バイキング、月4回の刺身、季節行事食(おせち料理、恵方巻、雛祭りの手巻き寿司、年越しそば、雑煮)、保存食づくり(梅ジュース)など、食事が楽しみなものになるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の献立について、職員全員の意見や案をもとに作成し、バランスのとれた食事が提供出来るように努めている。個々の状態に応じて副菜を刻んだり、ミキサーにかけたり、隣接施設の厨房より、事業所では出来ない形態の食事(ソフト食)の提供をしてもらうこともある。食事や水分摂取量について個人記録に残し、1日の状態把握に努めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態・能力に応じた声かけ・見守りで口腔ケアを行っている。訪問歯科診療を利用し、定期的な口腔点検を行い、必要に応じ治療を行い、あわせて適切なアドバイスももらっている。また月1回の口腔機能管理指導を受け、より適切な口腔ケアにつながるよう努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の活用や日々の状況等から、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行うことで、排泄の失敗が減少した。誘導の声掛けには本人のプライドに配慮して行うよう努めている。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、羞恥心や不安に配慮し、一人ひとりに応じた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。排泄補助用品(パットや紙オムツ)の使用は、カンファレンスでその根拠を話し合い、家族にも説明してから利用している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し日々の排便状況を把握している。繊維質の多い食材を使用した食事、おやつに乳製品や寒天の摂取、毎食時や1日2回の茶話会や入浴後に水分補給を促すほかに、散歩や毎日の体操、掃除等で体を動かすなど予防に向けての取り組みを行っている。必要に応じ、主治医に相談し指示を貰い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	平均2日に1回のペースで入浴が出来る。毎日の入浴希望のある方には可能な範囲での入浴を検討し、入浴拒否がある方には、声かけの工夫やシャワー浴や清拭を行い、生活パターンに合わせて午前入浴や午後入浴を行っている。身体状態に合わせてシャワーチェアを利用する等負担なく安全に入浴出来るように支援している。季節感を味わっていたけようにゆず湯の提供等で入浴を楽しむ工夫もしている。	入浴は、9時30分から11時までと、13時30分から15時まで可能で、希望すれば毎日入浴できる。順番や湯加減、好みのシャンプー、季節の柚子湯、おしゃべりを楽しむなど、本人の希望に添ってゆったりと入浴できるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて、清拭や足浴、手浴、シャワー浴、シャワーチェアの利用等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの1日のペースを把握して、安心して休息や睡眠がとれるように支援している。室内温度を適正に保つことで、安眠を促し夜間不安な訴えがある場合には、温かい飲み物を提供したり、話を聴いたりして不安を取り除き、安心して入床出来るように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服用している薬については、個別ファイルに説明書を綴じ、職員全員が随時確認し、把握できるようにしている。薬は最低2名の職員が関り、手渡し・服薬確認を行い、飲み忘れや誤薬の防止に努めている。月1回の協力医の往診や状態変化等で薬の変更、追加があれば、申し送り帳に記入し情報の共有を図り、家族には必ずその都度報告し了解を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味、残存能力を把握して、一人ひとりが活躍出来る場をたくさん提供し、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。	掃除(帚で掃く、掃除機をかける、椅子やすりを雑巾で拭く)、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、カーテンの開閉、新聞をとり込む、繕いもの、雑巾づくり、花を生ける、花瓶の水を換える、訪問客への挨拶、メニューを書く、プランターの水やり、苗植え、草取り、野菜(グリーンピース、大根、さつまいも)の収穫、梅や柿をもぐ、食事の準備、野菜を切る、味付け、盛り付け、下膳、コップ洗い、卵ボーロづくり、テレビやDVDの鑑賞、本や雑誌、週刊誌、写真集、新聞等を読む、折り紙、ぬり絵、切り絵、習字、日記を付ける、吟詠、歌を歌う、かるた、トランプ、坊主捲り、花札、季節の壁画づくり、カレンダーづくり、風船バレー、ボール遊び、園内での足湯、ペタンク、輪投げ大会、ヨーヨー釣り、ラジオ体操、テレビ体操、リハビリ体操、口腔体操、脳トレ(なぞなぞ、しりとり、ことわざ、四字熟語、計算、漢字)、季節行事(金魚すくいやヨーヨーのミニ夏祭り、花火大会、寿司バイキングの敬老会、クリスマス)、外出、ドライブなど、楽しみ事や活躍できる場面づくりをして、利用者が気分転換を図り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中であっても、楽しみが持てるように、日々の散歩や個別での外出支援でのドライブの機会を継続している。今は喫茶店でコーヒーを飲むことは控え、ドライブスルーを利用し、いつもと違うコーヒーの楽しみ方をして頂いている。 しかし、勤務体制上、利用者全員の希望に沿った外出支援が出来ていない現状がある。	事業所周辺の散歩や維新公園の散策、季節の花見(梅、桜、菖蒲、つつじ、紅葉)、ドライブ(市内、市ノ坂周辺、仁保方面、宮野方面、自宅付近、卒業した小中学校、馴染みの神社、公園等)、初詣、喫茶で軽食、園での足湯、園庭での花火大会、誕生日のドライブに出かけている。利用者には、毎日、日記を付けてもらい、その中に行きたい場所の希望を書いてもらう働きかけをして、希望に添って出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っておきたい、または持たせておきたいという本人や家族の希望により、所持していただいている方もいる。お金を持っていることで安心されている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人への電話は、職員が支援のもとかけている。また、本人に届いた郵便物を手渡したり年賀状の支援をして、外部との交流が途切れないように支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は常に清潔であることを心掛け、明るさ・温度・湿度・換気に配慮している。また、壁面には季節感あふれるディスプレイをし、テーブルや玄関には、季節の花を用いた生け花を置くなどして、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。	玄関や廊下、リビングには、季節の飾り物を置き、季節の生花が生けてある。室内にはテーブルや椅子、ソファ、大型テレビ、大きなぬいぐるみ(くまのプーさん)を配置し、利用者が思い思いの場所ですごせるような居場所づくりをしている。食堂には利用者の書いた献立が掲示してある。台所からは調理の音や匂いがして生活感を感じることができる。温度、湿度、換気、清潔、コロナ禍の中での消毒(個室は昼間、共用部分は夜間)に配慮して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の窓からは畑の野菜や花壇の花、近くの田園風景を見ることが出来る。食堂横の今や廊下にソファや椅子・テーブルを設置してあるので、一人で雑誌や新聞を見たり、CDやDVDでの音楽鑑賞をしたり、利用者同士が自由に会話できる居場所づくりに努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅や入居前地でこれまで使っていた馴染みのあるものや、本人が大切にしている家族の写真・飾り物等を置き、本人が安心して過ごせるように支援している。	ベッド、テーブル、椅子、箆笥、鏡台、衣装ケース、テレビ、時計、仏壇等、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、手作りカレンダーや家族写真、造花を飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間及び居室入口に手すりを取り付け施設全体が、バリアフリーになっているので、利用者が安全に移動することが出来る。利用者養エプロンの置き場所は目につきやすい場所にして自力で用意出来るように工夫している。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム山口あかり園

作成日: 令和 3 年 4 月 20 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全職員の応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続	応急手当や初期対応について、定期的な訓練を行い、実践力を身につける。看護師による講習会の実施	年に2回ほど実施する	1年
2	5	運営推進会議の地域メンバーの拡大の工夫	コロナ禍において会議が出来ていない中でも、地域や家族とのつながりを継続していく。	会議中止であっても、利用者の状況や活動報告を行い、意見が引き出せる体制を作る。	1年
3	14	外部研修は、段階的に参加できる機会を勤務の一環として設けるようにしているが、少人数の職員体制上、参加が難しい状況がある。	一人でも多くの職員が外部研修に参加できるように体制等を検討する。内部研修の内容の充実を図る。	コロナ禍において、外部研修の機会がない為、内部研修の内容を事例検討と共に接遇マナーなどにも重点を置いて実施する。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。